



ニュースレター

2014（平成26）年9月30日 グリーフワークかがわ広報部

「グリーフワークかがわとケア集団ハートビート 交流会」について

2014年9月3日 水曜日の午後1時。湿度の高さに汗ばむここ香川の地へ、日本アルプスを望む信州松本市から4人の方をお迎えしました。当法人発行の冊子「喪失の危機を克服するためのハンドブック」送付依頼がご縁で遠路遙々来訪くださった‘ケア集団ハートビート’の皆様です。

対面までの間、準備期間を通して‘ケア集団’というインパクトのある響きにとっても興味を抱いていた私。個人的に‘ハートビート’は心拍数の直訳ではなく、8ビートとか16ビートを刻むようなリズム音、心の波動をイメージとして描いていました。

当日、会場となった高松市男女共同参画センター 第2会議室、名刺を受け取った折、興味が納得へと変わりました。代表を務める松本市白板の東昌寺住職 飯島恵道さん、信州大学医学部保健学科 准教授の山崎浩司さん、松本短期大学看護学科 准教授の山下恵子さん（子どもを亡くした親の会「たんぼぼの会」代表）、認定NPO法人長野県みらい基金の大塚佳織さん、まさに心を支える各分野エキスパートの方々の集まりだということを知りました。

交流会の始め、当法人の活動と成果、展望についての説明を沿革と事業内容から紹介、発表しました。杉山理事長からの説明の中、2005年5月 当法人のロゴマークが決定。決定までの道を遡ること、2000年7月前身である‘グリーフワーク研究会’を発足してから先達として働きかけをされた諸先輩方のご労苦に改めて敬意を表するとともに繋がり、支え合う、という新たな決意がロゴに込められていることを改めて教えられたようでした。

一方、ケア集団ハートビートは、2006年4月に発足以来「生老病死のトータルケア」を目指す市民活動団体として地域に根差したグリーフケアを積極的に展開されているそうです。現在の長野県松本市 菅谷 昭（すげのや あきら）市長が医師であった影響力もあってか地域全体がグリーフワークに関心を寄せているという印象を受けました。毎月第3火曜日には月例会を開き、また、生老病死にまつわる本を皆で読み感想や意見を分かち合う読書会も隔月に開催しているという活動内容の発表がありました。それぞれの哀しみに寄り添いグループに分かれて体験や思いを分かち合い話し合うCOCO(ココ)カフェと名付けられた支援の場では、ミニコンサートを行ったり講演会を催すなど医療や福祉関係、葬儀関係者等、地域を支える多くの方々の協力が得られている風でした。

また、長野県中信地方版として今年、発行された冊子「大切な人を亡くしたとき」の紹介、悲嘆学集会などの告知など、頻繁に地元新聞社紙面に取り上げられていることを尋ねると、取材担当の方が同僚を不慮の事故で亡くし、その体験がハートビートとの距離を縮めたことになったのだろう、ということでした。

休憩を挟みながらの4時間に及ぶ交流会は、あっという間の時間でした。長野県と香川県。そこに集う人たちの地域色豊かな情報共有の場となった気がします。

689,5km離れた信州の地でグリーフケアの広報活動に日々懸命に取り組んでいるケア集団ハートビートの皆様に力強い勇気を頂きました。と同時にここ香川県におけるグリーフワークかがわとしての在りかたを探究してゆこうと思いました。



「文責 塩田征子」

◆2014年9月14日 第68回 理事会開催◆

《審議事項》

第1号議案 認定NPO法人取得申請に関する事項

香川県担当課に申請書類の確認を依頼し、今後は随時コンサルテーションを受ける等の対策をとっていくことでした承された。

第2号議案 2014年度グリーンカウンセラー養成講座・基礎コースに関する事項

16名の受講者が決定し、9月18日の開講、10月16日に第3回講師会を持つ予定について承認された。締切り後に申込みがあった高松訪問看護ステーションへは、理事長から電話にて対応をおこない、今後は互いに連携をとっていく機会をもつことが了承された。

第3号議案 高松市市民フェスティバルに関する事項

ワークショップとして開催予定の公開セミナーは「福島の子どもたち高松へおいでプロジェクト」「高松の子どもたちを守る会」との共同開催で講演会を実施する。講師は福島県在住で震災被災者の支援活動をおこなっている岡内真理氏で、テーマは「東日本大震災から3年半、被災地とともに歩む」とすることでした承された。

第4号議案 インターネット環境設定に関する謝金に関する事項

現在、設定を依頼している藤澤氏との間に業務委託契約書を締結するにあたり理事長案を確認し、作成は理事長に一任することでした承された。

第5号議案 リビング新聞社からの技術援助依頼に関する事項

ゲートキーパーの研修会を実施する予定がありGWKにも協力要請があった。リビング社内での実施計画書ができ次第説明を求める方向で当方より再度確認をしてみることで了承された。

第6号議案 2015年度自殺対策関連事業助成金事業の情報収集に関する事項

県担当課への情報提供を依頼していくことと、他の助成金について理事が情報収集を行うことでした承された。

第7号議案 ヘルプライン電話カウンセリングのマニュアルの修正に関する事項

連続予約がはいる場合の受理方法について変更し、マニュアル原稿を修正し相談担当者メーリングで配信することでした承された。

第8号議案 プロシユール改定に関する事項

GWKの紹介プロシユールの内容を見直し、自殺予防ホットラインかがわの時間帯の修正をしたうえで発注することでした承された。

(文責 杉山 洋子)

◆2014年9月21日 第25回 相談担当者会開催◆

審議事項

① 2014年度の研究について

杉山理事長より2014年度の実施要領の提案をうけて審議した結果以下のように了承された。(主要項目のみ記載します)

- * 研修方法 スーパービジョン
- * スーパーバイザー 花岡正憲, 杉山洋子
- * 開催回数 随時
- * 開催日時 コーディネーターが調整する。
- * 開始期間 2014年10月～2015年3月
- * 時間 1時間半
- * 予算 スーパーバイザー報償費 一回10,000円
スーパーバイザー交通費別途支払い実費弁済
資料コピー代は実費弁済
スーパーバイザー, 司会, 出席者は駐車料金自己負担

② ヘルプラインカウンセリングのマニュアルの改訂

古澤コーディネーターより審議事項として出されたヘルプラインカウンセリングのマニュアルの改訂について以下のように改訂され了承された。

I) 3 カウンセリングの項

終わり方

- (1) 50分間で終わる。カウンセリングを終える前に、次にどうするかを尋ねる。
- (2) 継続してカウンセリングを希望する場合は、次回の予約を入れる。

カウンセラーはコーディネーターに終了を報告し、次回の予約についても報告する。

II) 面談カウンセリングについても同様に改定する

編集後記

急に秋が訪れたようで、朝、夕の気温が下がりました。しかし、日中は暑い・・・そのため、衣服に困ることはありませんか？若い方は半袖で夏の装い、高齢の方は長袖ですっかり秋の装いでこれは年齢によって体感温度が違うということでしょうか。この時期は体調も崩れやすいのでくれぐれも注意をしてください。

(編集担当 植村)